

学校給食の無償化を!

東京都は1月11日、都内の公立小中学校の給食費について、区市町村負担の半分を都が補助する方針を明らかにしました。
酒井市長は、令和6年度から小学校の給食無償化に前向きな姿勢ですが、都の半額補助が実現できれば、本市において、小学校給食無償化のために必要とされていた予算で、中学校給食も併せて無償化が可能と考えられます。
「立憲ネット緑たちかわ」会派として、小学校ならびに中学校給食無償化の早期実現を求め、市長に要望書を提出しました。



酒井市長へ要望書を提出 2024.1.19



市政報告&おしゃべり会のお知らせ

日時 **2月10日(土)**
13:30~15:00

途中入室・退室OK

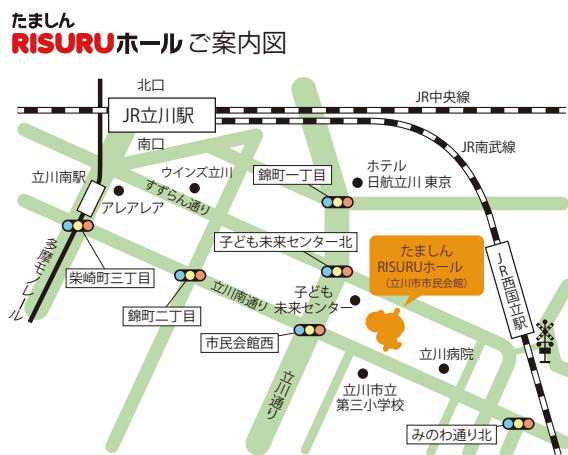
場所 **たましんRISURUホール**
ギャラリー【3F】

トークテーマの一例

- ・ケアが必要な子どもたちのために
- ・不登校支援について
- ・学校給食について など
- それ以外のテーマでもOK!

参加費
無料

地域の皆さんに、お住まいのまちの議会を少しでも身近に感じていただけるよう、**報告会と意見交換**を行いたいと思います。
ざっくばらんに市政について話したり、交流したりできる場になればと思います。
お気軽にお越しください。
お申し込みは、本チラシ下部にある原ゆきメールへ。
またはお電話(070-9008-7455)で。
お子様連れ大歓迎!おもちゃの用意あります♪



※子ども未来センター(隣接)に有料の駐車場があります。
(ホール利用者は最初の1時間無料。障害者の方は用務所要時間免除。)
※駐車台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

発行責任者 **原ゆき事務所** 〒190-0001 立川市若葉町1-3-1-408
tel:070-9008-7455 Fax:050-3488-7544
mail:harayuki0802@gmail.com

1987年生まれ36歳。元小学校教員。長妻昭衆議院議員元秘書。
若葉小/立川九中/錦城高校/都留文科大学卒。
夫、子2人(3歳、0歳)と共に若葉町在住。

ホームページ「お問い合わせ」フォームから
皆さまのご意見お寄せください!

SNSで日々の活動を発信しています!

<https://harayuki.com/>



市議会レポート vol.5

能登半島地震に関する活動、
一般質問、厚生産業委員会、
メディア掲載のご報告

立川市議会議員

原ゆき通信

令和5年度冬号



こんにちは、原ゆきです。

年明けには甚大な災害、事故が相次ぎ、尊い命を失った方々に
謹んで哀悼の意を表します。

また被災された全ての皆さまにお見舞い申し上げますとともに、
一日も早く日常を取り戻されることを願ってやみません。

党務並びに議会活動として被災地への募金活動を行っており、
そちらもご報告いたします。

新たな一年が皆さまにとりまして安らかで、健康で、明るい年と
なりますよう、心より祈念申し上げます。

能登半島地震被災者支援のための義援金募集

立川市でも募金を受け付けています!

災害対策や復興の一助としていただくため、立川市議会として、1月14日に街頭募金を行いました。
ご協力いただいた皆さまの大切な募金は、石川県(令和6年能登半島地震災害義援金口座)へ振込みさせていただきました。また、以下にお示しする場所には義援金箱が設置されています。皆さまからの温かいご支援をいただければ幸いです。立川市からの被災地・被災者支援として石川県へお届けします。

義援金箱があるところ

- ・立川市役所本庁舎
- ・立川駅北口の窓口サービスセンター
- ・中央図書館
- ・たましんRISURUホール
- ・立川競輪場(開催中のみ)



中央図書館に設置されている義援金箱



立憲民主党東京21区総支部の街頭募金活動に参加しました

一般質問を行いました

質問の様子は
こちらから



Theme 1. 教職員のよりよい働き方にむけて

市内小中学校教員の在校等時間管理一覧

(朝8時15分~夕方4時45分までの勤務時間を除いた1か月の在校等時間)

年度	小・中学校全体		
	0時間~45時間未満	45時間~80時間未満	80時間以上
令和2年	34.3%	44.0%	21.7%
令和3年	33.8%	41.5%	24.7%
令和4年	36.2%	54.1%	18.7%

まず、コチラの表を
ご覧ください!

Theme 1. 教職員のよりよい働き方にむけて つづき

原ゆきの質問 1 小中学校教員の超過勤務について

小中学校教員の在校等時間は、令和3年度から4年度にかけて減少しているものの、依然として超過勤務が解消されていない。市教育委員会の取り組みは。
(前ページ「市内小中学校教員の在校等時間管理一覧」参照)



スクール・サポート・スタッフとは、(以下「SSS」)
教員の事務作業支援員のことです。

立川市からの回答

校務支援システムや**学校電話の自動音声応答装置**の導入、**スクール・サポート・スタッフ**(※)の配置などを進めている。またコロナ禍での教育活動の取組を踏まえ、行事等については、教育的価値を改めて見直し、再構築していくよう、各学校に周知している。

教材のコピーや教室掲示など、学級担任の業務負担軽減などを担っており、立川市では現在各学校1名の配置となっています。日々の助けになっているが、それでも手が足りない現場からの声があり、原ゆきの出身労働組合、東京都公立学校教職員組合では、東京都教育委員会に対して、SSSの増配置を求めています。

Theme 2. もっと! 出産・子育てしやすいまち立川へ

原ゆきの質問 2 不妊・不育治療について

不妊・不育治療が保険適用となっても、まだまだ自己負担が多いのが現状。
東京都が特定不妊治療費の助成を行っており、併せて利用できる独自の助成制度を設ける自治体が増えている。立川市でも不妊・不育治療の助成制度を始められないか。

立川市からの回答

市としては、**保険適用外の先進医療の自己負担の軽減**や、**自費診療**についても助成する制度内容について検討を進めている。

原ゆきの質問 3 一時あずかりについて

立川市では土日の一時あずかりを行っているのは、立川子ども未来センター内にある一時あずかり保育室「みらいっこ」のみで、予約開始とともに定員となり、キャンセル待ちも多い。**土日や急な残業にも対応できるベビーシッター利用**の支援はできないか。

立川市からの回答

東京都のベビーシッター利用支援事業の活用について検討している。



原ゆきの質問 4 紙おむつ定額制サービスについて

保育施設での紙おむつ定額制サービス(おむつのサブスク)を導入する自治体がある。
保護者が毎日おむつに記名し自宅から持ち込む方式から、**使用する分の定額を支払い保育園で準備・処理してもらえる**ことで子育て世代の負担軽減につながると考えるが協議などしているか。保護者アンケートなどで市民のニーズを把握してはどうか。

立川市からの回答

昨年度より公立保育園での導入について検討しているが、直接的な要望があまりないことなどから導入に至っていない。
提案のあった**保護者アンケート**のほか、**懇談会での意見交換**や**導入済みの施設への聞き取り**などにより、導入の是非について今後とも検討していく。

皆さまからいただいた声を議会に届け、その要望が少しずつかたちになろうとしています!
具体的に予算組みがなされ新事業として決定したときには、改めてご報告いたします。

12月議会の「厚生産業委員会」

Theme 01

経営改善緊急支援金について

立川市の地域経済対策として、経営改善計画の策定等、経営体制上の強化に向けた取り組みの促進を目的として、緊急的な支援金の給付を行う。
対象期間は令和6年9月30日まで。



詳しくはこちらから

Theme 02

高校生までの医療費無償化について

令和5年10月から、市の独自事業として、義務教育就学児医療費助成(マル子)、高校生等医療費助成(マル青)の所得制限・自己負担(200円)を撤廃!
これで0~18歳までの医療費無償化を実現しました!



Theme 03

放課後子ども教室くるプレの導入予定について



令和8年度までに表の順で全小学校に導入する方針が示されました。

年度	学校名
令和4年	二小、大山小、松中小
令和5年	五小、六小、十小、南砂小
令和6年	一小、三小、柏小、上砂川小
令和7年	四小、八小、幸小、新生小
令和8年	七小、九小、西砂小、若葉台小

メディア掲載のご報告

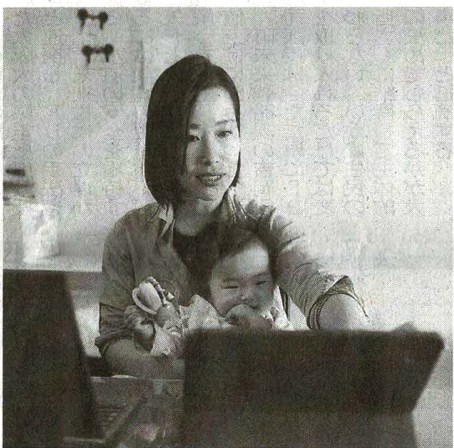
昨年、共同通信社さんから原ゆきへ「子育て女性の政治参画」をテーマとした取材依頼がありお受けさせていただいたところ、年明けに複数の新聞社で掲載されました。

河北新報(宮城県)、福島民友新聞、上毛新聞(群馬県)、千葉日報、高知新聞、埼玉新聞、茨城新聞などに掲載いただきました。

妊娠を機にオンライン活用

東京都立川市議 原由希さん

東京都立川市の自宅で長男をだっこしながらオンラインで委員会を傍聴する市議の原由希さん



東京都立川市議の原由希さん(36歳長女)と生後8カ月の長男の子育て真っ最中だ。長男出産時に約2カ月の産休を取得。復帰後、市議会で初めて、自宅から委員会にオンライン出席した。私が前例となり、女性議員が増えれば地域の子育て環境はもっと良くなる」と意気込む。

都内で小学校教諭を9年ほど務め、教育現場の声を代弁したいと模索し衆院議員秘書に転じた。長女の出産を経て2022年6月、地元立川市議選で当選を果たした。普段は朝6時に起床。

2児を保育園に預け、議会に向かう。欠かせないのは周囲のサポートだ。長女出産時に5歳上の夫は半年間の育児を取った。長男の妊娠を受け市議会は委員会条例を改正。オンライン出席の要件に出席や育児を加えた。「私が当事者だったことで一歩進んだ」と語る。ただ本会議への「出席」は、地方自治法では現に議場にいないと解されている。市議会の裁量でルール変更できない。産休明けの本会議のため、長男を議会の会派室に連れて来たこともあった。

選挙手法についても「子育て世代の現状とマッチしていない」と感じる。乳幼児の寝かしつけに苦心する世帯にも配慮し、次の選挙では大音量の連呼は控えようと思つた。教諭出身として教育や子育て環境の改善がライフワークだ。「地域で子育ての課題を知る母親たちがどんどん議員になるべきだ。私が良い流れをつくるように頑張りたい」

社会全体や子育て、子育てを応援する体制を整えていくよう、さらに力を尽くします!



見やすいカラーのデジタル版



(沖縄タイムスプラス)

東京・立川市議のある一日

午前	午後
6時	起床、授乳
8時台	朝食、子どもを保育園に預ける
9時	SNS発信 市役所などで議会の質問準備
11時	活動報告のポスティング
0時	昼食
1時	議会の質問準備、打ち合わせ
4時	保育園にお迎え、授乳
6時	夕食
6時半	支援者とオンライン会議
7時	授乳
9時	子どもの寝かしつけ
10時~	就寝。未明まで質問準備中